

## 第1回運営委員会議事録

日時:平成19年6月12日(火)

場所:名古屋大学医学部鶴友会館

出席者: 主任研究者(浜島信之)、田島和雄、三上春夫、徳留信寛、上島弘嗣、古野純典、田中恵太郎、嶽崎俊郎、有澤孝吉、橋本修二、江口英孝、平木章夫、鈴木勇史、川戸美由紀、小笹晃太郎、繁田正子、三谷智子、尾崎悦子、松井大輔、鈴木貞夫、上村浩一、日吉峰麗、武田英雄、新村英二、中村昭彦、鈴木妃佐子、池田佳名子、増井徹、織井優佳、中央事務局(若井建志、内藤真理子、西尾和子、石田喜子、岡田理恵子、増井香織、服部秀美) 計36名

### ○文部科学省科学研究費特定領域研究の今後の動向、研究費配分

・主任研究者より、平成22年度から5年間の特定領域研究の研究組織のあり方について検討が始まり、今後研究費の枠が変更になる可能性があることが説明された。

### ○高島研究の研究責任者交代について

・上島先生より、高島研究の研究責任者を上島先生から喜多先生に交代したいとの申し出があり、来年度より交代することを了承した。

### ○生体試料解凍事故の概要、事故後の経過説明

・主任研究者より、生体試料解凍事故の概要、事故後の経過が説明された。この説明について、コーホート研究実施グループ、社会的諸問題検討委員会より意見が出され、議論の結果、今後の対応として下記を決定した。

- 1) 中央事務局での生体試料受け入れはすでに2人で行い、十分なチェック体制を敷いているが、この作業をマニュアル化する。
- 2) Web 上で公開しているお詫び文に、検体解凍事故の経過、再発防止策のマニュアルを追加する。
- 3) 研究協力者個人に手紙などでのお詫びは行わない。
- 4) 今後、事故が生じた時には早急に社会的諸問題検討委員会とも相談して対応を決め、関係するコーホート研究実施グループ、内部組織への連絡を迅速に行う。
- 5) 中央事務局の生体試料受け入れの実際について、コーホート研究実施グループ、研究モニタリング委員会、社会的諸問題検討委員会によるモニタリング(サイトビジット)を実施する。

### ○J-MICC 連合について

・九州大学の COE コホートから調査資料、生体試料の提供を受け、同コホートを J-MICC 連合として、J-MICC 研究の他のコホートとともに解析に加えることを確認した。COE コホートの最終的な人数は 25,000〜30,000 名になる可能性があることが古野先生から示された。

### ○死亡小票閲覧申請進捗状況について

- ・中央事務局より死亡小票閲覧申請進捗状況について説明があった。これに対し、コーホート研究実施グループ独自の事情(年齢や年度の範囲、死亡診断した医療機関・医師名の閲覧)も考慮してほしいとの意見があり、可能な限り配慮すべく、厚生労働省の担当者と交渉することとした。

#### ○追跡調査について

- ・中央事務局(若井)より、コーホート研究実施グループからの担当者各1名と中央事務局の2-3名からなる追跡調査に関するワーキンググループを作り、年に1、2回会議を開くことが提案され、承認された。

#### ○第二次調査について

- ・中央事務局(若井)より第二次調査について、対象者、質問票調査、生体試料収集に関するコーホート研究実施グループへのアンケート結果の報告があり、次回運営委員会までに手順書案などを作成することが提案された。これについて議論の結果、第二次調査の目的などについて追加のアンケートを行い、必要に応じてワーキンググループを作ってさらに検討することとした。

#### ○その他

- ・研究モニタリング委員会より、サイトビジット(各コーホート研究実施グループ、中央事務局の研究実施状況の現地調査)の後に情報交換をしたいという意見があり、サイトビジット終了後に可能なかぎりディスカッションの場を設けることとした。